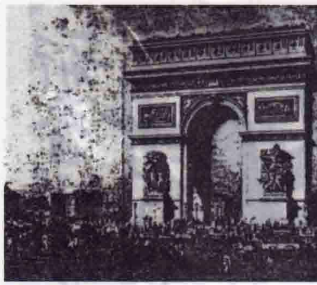


米欧回覧

第14号
編集・発行
米欧回覧の会
事務局

麗都巴黎の新年会——第十二回例会

第十二回例会は、一月二十九日(金)午後六時半より国際文化会館において、国際交流部の担当でレクチャアや会務報告などの一切ない新年懇親会の形で行われた。



巴黎の凱旋門

百二十六年「岩倉使節」が「麗都・パリ」で迎えた正月に因んだ当夜のパーティーは、担当幹事の肝いりで大変雅趣に富んだ会となり、国際色豊かな七十名近い出席者はそれぞれ盃を交わして華やかに楽しげに懇親のひとつときを

過ごした。

会場に入ると、美しい庭が照明に映え、ヴァイオリンとピアノがまずこの会のテーマ曲?となつた「八十日間世界一周」をかなで、さらには正面の大きな壁面に一八七〇年代のパリの風景がスライドで次々と上映されシャンソンの名曲の数々が演奏された。

お客様はパンチ(ポンケ)の盃を片手にルノワールの描いたムーラン・ド・ラ・ギャレ的な世界に入っていく。

仮面舞踏会のマスクをつけたシックなドレスの麗人(脇山真木さん)が登場して、「米欧回覧実記」のパリでの正月の一節「新年祝賀の章」を朗々と読み上げる。三が日を当国会のあったヴェルサイユ宮殿での新年挨拶やノートルダム寺院の見学に費やした使節団の情景が彷彿としてくる:



：そして泉三郎氏の「パリは人をして愉悅せしむ」の挨拶があり、「乾杯」の発声と景気のいい演奏が入って会は始まった。
それからは自由な歓談の間、いくつかの趣向、フランス大使館の参事官・マダム・リスレールの英語によるスピーチ、音楽に造詣の深い岩崎洋三氏からの、ドビュッシーやサンサーンスの話とそれに合わせた演奏、山田哲司氏からはワインや絵画の話があり会を盛り上げた。
最後に浅沼晴男氏よりエスプリの利いた挨拶があり、このパーティーの演出者でもあり司会者である山田氏らへの謝意が述べられて八時半に閉会した。

「米欧回覧実記」の面白さの一つは、久米の簡にして要を得た比較文明論でありましょう。「実記」を見ていくと随所にさまざまな形で出てきますが、その中でもパリとロンドンの比較はその一典型と言えるのではないのでしょうか。

21世紀八人ヲシテ愉悦セシム?

《倫敦ノ街ハ、地下ノ鐵路アリ、地上ノ車道アリ、天上ノ鐵路アリ、人民モ亦三様ノ生理ヲナシ、日ニ棲棲徨徨タリ、石炭ノ烟白日ヲ薫、雨露モ亦黒キヲ覺フ、巴黎ハ然ラス、全府ノ民ヲ、一ノ遊苑中ニオク、巴黎ノ市中、往ク所ミナ遊息ノ勝地アリ、街上ノ行人モ、亦其歩忙シカラス、空氣晴朗ニシテ、烟煤少ク、薪ヲ以テ石炭ニ代フ、倫敦ニアレハ、人ヲシテ勉強セシム、巴黎ニアレハ、人ヲシテ愉悦セシム》
明治以来日本はいわば、「東洋の英国」を目指して「勉強」し、「勤勞」

泉三郎

してきました。産業革命に遅れ近代化を急がなければならなかった日本人としては、やむを得ない面がありました。
とりわけ深い谷に落ちた戦後は余りにも生真面目に「勉強」し、「勤勞」してきました。あるいは二十世紀そのものが余りに「技術の進歩や経済の発展」に忙しすぎたといえるかも知れませんが。そして、そのお陰で「文明の果実」が、今たわわに実っているにもかかわらず、それを楽しむ余裕を持たず、「より豊かに、より便利に」と、さらなる果実づくりに金儲けに忙しがっているように思えます。
われわれ日本人は「手段」に埋没するのではなく、本来の目的たる「生きる」とそのものに「目覚めるべきでしょう。」
その意味で日本人にとって「二十一世紀八人ヲシテ愉悦セシム」であるべきだと思いますが、いかがなものでしょうか。



国際色あふれて・・・



パリと音楽に
ついて語る
岩崎洋三さん



パリを奏でる
ピアノ・ヴァイオリン

新春 寸描

私は日本における「フランスのイメージ」について大変関心をもっています。1850年代までそれはポルトガル人やオランダ人がもたらしたイメージでしかありませんでした。でも岩倉使節が訪れる頃から大いに変わって、文化的な洗練された国であり、科学技術も大変進んだ国として理解されるようになりました。政治家はフランス革命に興味をもち自由や個人主義に関心をもちました。そのころのイメージは例えばルソーやモンテスキューやボルテールで



マダム・リスレールのスピーチから



とる
絵を
語る
の山
リン
の田
パワ
ワ司
山哲
司さん



をた
ルきん
スレ弘
マダム
「なば塚

そして昨年の四月からは「日本におけるフランス年」ということで、いろいろの催し・・・文化的、科学的、経済的催事が行われ、フランスのイメージもよりフランスのとれたものになりつつあります。そして今夜のような素晴らしいパーティが開かれることは日仏交流にとって大変有益であり、とりわけみなさんがフレンチワインで盛り上がっていることを嬉しく思います。どうもありがとうございます。

あつたといえましょう。しかし、一般的なイメージとしては、フランス特にパリは、明るさや軽やかさ、幸福や愉悦といったニュアンスであり、日本語でいうと「軟派」ということでしょうか。ドイツの生真面目で、着実で、組織的なイメージのある「硬派」とは対照的でした。
(中略)

理未来グループ

連絡 郡山史郎 TEL.03-3492-8553 FAX.03-3492-8144

九九年度は新しい企画を考えています。会合は年四回程度、中身を今までとは変えたいのでアイディアを募集中です。
「考える・聞く・話す・笑う・楽しむ・勇気が湧く・行動に移る・社会のためになる・自分のためになる・生きる楽しみ

歴史グループ

連絡 半澤健市 TEL&FAX.03-3717-5576 (自宅) FAX.03-3717-5576 (事務所) kenhanza@ba2.so-net.ne.jp

歴史部会は、岩倉使節団の使命だった日本の近代化がどのように展開したか、という観点から歴史の事実や解釈をめぐって話し合うサロンです。様々な意見の方を歓迎します。

各分科会

活動だより

前回は一月二十二日「昭和天皇独白録」の読書会でした。NHKスペシャル「二つの天皇独白録」の録画を見たあと、独白録の性格や昭和天皇の開戦・終戦への関わりについて議論しました。部会としては初めて二十五人という多数の参加者があり盛り上がりました。

を味わう」この繰り返しが出来たらよいなと思います。今年には政治も経済も問題が沢山ありそうですね。新しい方も奮ってご参加ください。
また「こんな会合をやって欲しい」というご意見がありましたらぜひお寄せ下さい。自分の意見を自分の言葉で言うことができる、本音の討論の広場であることを大切にしたいと思っています。

次回(三月)で第九回を迎えます。テキストは、原文ゆえ、やたら難しい漢字が並びついでさばりたくなってしまうはずなのに常連さんがふえ、ワイやっています。コメントーターの泉氏、水沢氏がおいで下さることに加えて、常連さんの話が何とおもしろい。時には、オランダの話から飾り窓に飛び、アルゼンチンの美人の話にまでとんでしまう。岩倉使節団はアルゼンチンには行ってないのだ！そんなわけでテキストを読むのを怠けて出席しても面白く、飲んで笑って博学になる会です。初めての方もお気軽にどうぞ。



「岩倉使節団の世界一周旅行」と銘打ったスライドのマラソン上映会が、映像ならびに企画部(会担当)、十二月六日(土)十時半より、日比谷の「日本記者クラブ」のプレスセンター十階ホールで開催された。

会場には記者クラブのメンバー四十名を含む一七五名が出席して、午後五時半まで昼食やティータイムをはずさんでの長時間にもかかわらず、ほとんど落伍する人もなく、最後まで熱心に完走、大盛会のうちに終了した。

また、六時からは別会場の新橋亭で懇親会が行われたが、こちらも定員三十名満杯の状況で、酒も入ってさらに盛り上がりを見せ談論風発とどまるところを知らずの賑わいとなった。

なお、スライドの間に会場の方々からコメントをいただいたのでその概要を紹介させていただきます。

田中洋之助氏

このスライドを見て感じる事は、明治のはじめ、二十代、三十代の若い人が中心になって十九世紀後半の欧米諸国を回覧し、国の力の源泉とはいったい何であるか、を極めて正確に捉えたということ。それは蒸気船と蒸気車に象徴される技術革新であり、それが経済力を強くし世界を制する原動力になったわけですが、それらをきわめて実証的に「何でも見てやるう」の精神で見ている。長所も欠点も光や陰の部分も時には街裏まで踏み込んで見て歩いた。

その背景は何か、一つは若さのエネルギーであり、一つは「日本をどうするか」という使命感だったと思う。意見はいろいろ違つたろうけれど、そこには共通の使命感があつた。だからホテルに帰つてもいかにして国力をつけるか盛んに議論した。開明派と保守派、急進派と漸進派、それが互いにダイバートして、日本の国策の形成がなされたんだと思う。

ところが、司馬遼太郎さんもいつているように、昭和になつて日本がおかしくなつたのは、国民の中にリアリズムがなくなつて、イデオロギッシュになり、抽象的、観念的になつてしまつたからだと思ふ。

これからの日本の国のあり方を考える上で、大切なことはリアリズムの精神であり、そうした意味で、このスライドが投げかける意味は非常に大きいと思ひます。

齊藤京子さん

使節団一行の心意気を感じます。それに反して、今の政治家は自分の身を守ることを考えている。それがとても悲しい。もつと世界を知つてきたかになつてもらわねば困ります。政治家にこそこのスライドを見て欲しい。

大原 進氏

三十数年前、初めてアメリカを訪れ、金門橋をくぐつたときの感激を思い出します。そして私の抱いた感慨と百数十年前の使節団の感激も変わらなかつたことに思いを馳せています。そしてアメリカ人が大変歓迎してくれたこと・・・今は日米間がなにかとギクシャクしてますが、その原点に戻らねばと思ひます。

アンケートから

当日、参加した方々から七十四通の回答をいただきました。その中から要旨だけ抄録させていただきます。

*使節団の意義について

●超一流の使節団をよくぞ出したものと感服します。そのことが猛烈なスピードで近代国家をつくり得た源となつた訳でしょうが、そのあまりにも見事な官僚国家の誕生が、現在の日本社会にとって政治的にも経済的にも発展を阻害する要因の一つに理由づけられていることに複雑な気持ちでもあります。

●今の日本こそ「岩倉使節」が必要なのかもしれません。先達の足跡と伝統を正しく継承し発展させていくことこそ大事ですね。

●実に幸運な判断を日本は行ったと考えられる。

●当時、このような発想の使節団を送るような国は世界になかつたのではないだろうか。

●とても面白かつた。学校でも教えれば、授業としても良いと思ふ。国家というものを考えるようになると思ふ。

*辛口批評

●使節団の批判的な側面で見ると必要もあるでしょう。「脱亜入欧」の光と影といったことも・・・

●総論的、表面的で物足りないが、初めて内容を知るには一応の映像解説になつてゐる。

●きれいな事のみで表面的である。使節団メンバーの苦悩や互いのコミュニケーションがでていない。種々苦勞があつたはずである。

●政治家連中に見せるにはインパクトが足りない。もう少し編集し直すべきだ。

*推薦の弁

●文部省の推薦で学生に見せるべきである。最近の学生の歴史認識のうち一番大切な近代日本史についての時間が圧縮されている。幕末から明治維新の先人達の心意気を伝えるべきだ。

●この映像は日本の国民に繰り返し見せたい。紹介されるべきでありましょう。近々、テレビのチャンネルも圧倒的な数に達するはずであり、報せられるべき材料に不足を来す局面が必ずその機会をつくらずでありませぬ。

藤原宣夫氏

使節団がインディアンを
を見て交わす会話のところで、
実は白人が原住民の土地に侵
略してきたのだという事を喝
破していることを知って感激
しました。いま、リオグラン
デを越えてメキシコ人がアメ
リカに行くこと、ウエルカム
アーワーカウントリーと言
うのですが、メキシコ人やイン
ディアンつまり原住民にして
みれば逆で俺達がウエルカム
ユーなのだと言いたいわけ
ですね。その点、日本人はその
ころから人種差別の不当さに
気づき言及している、そうし
た倫理感についてはむしろ日
本人の方が優れていたんだと
いうこと、それから何故いま
はそうでなくなってしまった
のか、大変考えさせられると
ころです。

佐野真由子さん

この一年間はかり英国の大
学院に留学する機会があり、
初めて旅行者としてではなく
生活者としての体験をしまし
た。しかし、いざ行ってしま
すとまるで国内で引越すよ
うに、その社会の中になん
の抵抗もなくすんなり入っ
てまい、むしろ驚きを感じま
した。それも考えてみれば、現
地でいい方めぐり会った幸
運もありましょうが、幕末の
留学生や岩倉使節以来の百二

三十年の先人達の積み重ねの
上に初めて出来たことな
だなあ、とあらためて感じ、
大変有り難くまた幸せに思
いました。



乙幡 範氏

私自身、現実に英米を旅し
て見て歩いた経験からすると、
使節団があのような日数、二
年近くも吸い取り紙のよう
に知識を吸収しながら旅を続
けたということは、これはすご
いことだと思えますね。その
好奇心、向上心、エネルギー
にわれわれは見習わなくては
いけない。
それから欧米では政治経済
についてもっと長期的なもの

を考えています。国家百年の
計で動いているように感じま
す。この点も学ばなくてはは
いけないと思います。

白石武夫氏

「回覧」という言葉に大変
興味をもちました。というの
は、今の視察は、大体行く前
に仮説ができていて、言い換
えれば結論が出ていて、その
アリアビづくりのために旅す
るケースが多いのではない
かと思うのです。ところが、こ
の使節の「回覧」では虚心坦
懐に世界の現実を見、リアル
にものを見てこようとする、
そういう姿勢があったと思
うんです。ですから、これから
の日本にはもういちど「回覧」
という感触の旅が必要ではな
いかと感じました。

野口宣也氏

私は三年くらいサンフラン
シスコに滞在していたのです
が、岩倉使節団がラルストン
という実業家の館に二回も招
かれていた事実をまったく知
らなかつたんですから、実
はその館のあったベルモント
に近いところに住み、何百回
もラルストンという名の通り
を往来しながらも無為に過
してしまえば悔の念にかられ
ているところですよ。
それから印象的だったこと
は、ワシントンでの条約改正

- 素晴らしい企画、事業だと
思いますので、更に多くの方
に接する機会があるといい。
願わくば特に各界のリーダー、
インテリと言われる方々に、
そして一人でも多くの日本人
が、各個人がこれを見て、さ
らに成長していつてもらうよ
う念じております。
- 政治家、学校の先生にみせ
るべし。
- 学生、青年には是非広く見せ
たい。部分的でもいいから観
光商品に応用できれば素晴ら
しいと思う。

*上映の方法について

- 全巻マラソンレースのよう
に上映するとかなり疲れる。
それに泉さんからの解説もほ
んどなかったもので、やはり
三回くらいに分けるのがいい
のではないか。
- 一国一シーン、それぞれの
バックグラウンドに、ゆっくり、
じっくり関心を持って見たい。
この壮挙ともいえる「事業」
を、今の日本の時代に出来る
だけ多くの人々に、実際に見、
体験し、各自がそれに基づ
く行動を、実行するような機
会をもってもらいたい。
- あの時代に壮大な世界旅行、
まったく頭の下がる思いがす

る。今の学生は現代史(近代
史)を学んでいない。学ぶ機
会も教材も与えられない。こ
の映像は貴重な教材として活
用すべきだ。一般にも市販し
て世に問うて欲しい。

- 教材として使用できるよう
にまとめてはどうか。その場
合はビデオがよいと思う。こ
の種のセミナーは三時間前後
が適当ではないか。
- *制作について
- ナレーションはとても簡潔
で要を得ており、感心しまし
た。

- 漢文的な表現は実に簡潔で
内容をよく伝える感がある。
素晴らしい。
- 経費面での制約があるので
しょうが、久米邦武の文の引
用部分は文字にしてほしいと
思います。
- 現代のような飛行機の旅は
忙がしくて現地を浅薄に見過
ごしてしまいます。使節団の
ような旅を是非してみたいで
すね。代議士先生の海外視察
も久米さんを勉強して実践し
てほしい。
- 各巻、その解説も名文で引
き込まれてしまいました。今
日の各地の景観のほかに、当
時の資料を豊富に取り入れて

の悲劇的なエピソードのところ。アメリカで大歓迎をうけて友情と国家間のシビアナ交渉とを同次元で受け取ってしまったこと、それによる大チョンボのことです。これは今日のわれわれからみても決して笑えない事実で、むしろ取り違えるのが当然だと思わうくらいです。

それからロンドンで詐欺事件にあってしまったことですが、この種のことはいまほとんど変わっていないと思えます。

いずれにしろ、過去を振り返ることの大事さ、面白さを強く感じました。

白川方明氏

岩倉使節団の欧米文明の吸収の努力が、そしてその成果が、その後の日本に具体的にどんな形で生かされたのか、それに疑問を感じます。むしろいろいろな文物、制度には生かされたとしても、本質的なところでどう生かされたかに興味をもちます。

それは現在に置き換えれば、国際派、国内派の対立であり、より具体的には市場原理のつとったグローバル化を主張する派とそれをアングロサクソン風の陰謀だという守旧派との対立であり、いつの時代も同じようなせめぎ合いがあつて、個々人はその狭間で苦

勞しながら暮らしているのだなという印象をもちました。

永富邦雄氏

本日、プレスセンターでの「映像の会」が催されたことの意味は大きいと思います。そもそも日本では歴史がないがしろにされています。歴史をもっと重くみなくてはいいけない、少なくとも否定するようなどであつてはいけません。学校の教育でも是非々々きちんと歴史を学ぶべきだと思います。「米欧回覧の会」はそれをサロニックにやっているけれど、この際プレスの方々がそうした重要性をもっと取り上げてほしい。

水沢 周氏

大変緊張感と知的スリルに富んだ旅でした。「七時間・世界一周」ということでしょいか。そこで、今日の旅を終えて、われわれの得た「共通の感動、認識」はなんだろうと考えてみました。

その第一はあの当時の知識階級、有識者、指導者が、いかに柔軟で、豪毅で、敏感で、知的好奇心に溢れていたか、ということですね。

そしてもう一つ、現代にひるがえって考えるとき、われわれに彼らのもつていた謙虚さ、敏感さ、豪毅さ、そういうものが本当に残っているの

か、と言う反省です。今の日本や日本人がこれでもいいのか、という危機感や歴史認識です。

しかしこの認識は人によつていろいろ違いがあり、したがって危機感が微妙に異なつてきます。しかし、違ふのはむしろ当然のことです。そこで大事なことはその歴史認識や危機意識について、自由に率直に話し合える場を持つことだと思えます。いろんな人の意見を十分に聞き、よく理解することが大切だと考えます。

そしてその場が実はこの「米欧回覧の会」だと思ふんです。これはいまだとき稀な会です。その意味でこの会と映像を高く評価したいし、あらためてこの会の主催者の方々に感謝の意を表したいと思ふます。



下さつてあり、ビデオにしたいだいて、授業で使うことが出来たらどんなにすばらしいでしょう。

●大学生の子供たちに見せたいと思ふので是非近いうちに再上映をお願いします。

●これを是非見て欲しい人たち:

- 一に政治家、二に青年男女、三に中・高校生、四に教育家(教師)、五に公務員。

●関心の深い人々にとつてはいくら長くても足りない程の力作と感銘をうけました。ただし一般の人にはいかにも長すぎるので、ダイジェスト版のビデオができれば、この使節団の歴史的、現代的な意義をもっと広く理解されるのではないでしようか。

●本日のイベント中に見出されたポイントを掘り下げて拡げていくためにフォローイベントを考へるべきだと思ふ。

***NHKへの注文**

●NHKの「堂々日本史」などで一般放映する機会をもつべきだ。大河ドラマの一つとしても取り上げる価値がある。

●NHKが毎年膨大な公費? を使つて大河ドラマづくりの浪費をしています。この非常

時に「忠臣蔵」とは何たることか。

●この「米欧回覧」こそ、時宜を得た大河ドラマのテーマではないかと思ふ: 天下のコンセンサスは可能と思ひますが、誰かこの企画を進める核になる人はいませんか。

***その他**

●一般に「言葉」というものだけで世の中が流れていく現在の日本に非常な危機感を持つております。

●それにしても機械化が進むにつれ、「ムダ」がどんどん省かれ、効率的にはなつたのに、それを使う人々の能力が落ちてきたように思われる。今日、スライドで出会つた岩倉使節団一行の若者が現代にいてくれたらアツと言う間に問題を解決してくれそう:

今の男たちは金の魔力にとりつかれてしまった人が余りに多い気がする。

●一年前にダイジェスト版の九〇分ものを見ましたが、今回オリジナル版を見て、新たな感銘を得ました。

『米欧回覧の会』ご案内

趣旨 この会は「岩倉使節団」に興味を持ち、その記録である、「米欧回覧実記」に関心を抱く人々の集まりです。
この大いなる旅と「実記」はまさに「温故知新」の宝庫と言えましょう。

この素材を媒体にして歴史をふりかえり現代の直面する諸問題についても自由に語りあおうという会です。

会員 上の趣旨に賛同する人なら誰でも入会できます。

例会 年に4回くらい会合をもつ予定です。

事業 次のような活動をする予定です。
テーマ別グループ活動・映像サロン・講演会・旅行会研究会・シンポジウムなど。

機関誌 年に4回程度機関誌を発行し、活動報告や会員の意見発表、情報交換の媒体とします。

幹事 会員の中から、代表1名、幹事数名を選び、運営を担当します。

会費 年会費3,000円とし、主として通信費および機関誌代に充当します。例会・研究会・講演会などについては、その都度の会費とします。

事務局 当面は「イズミ・オフィス」に置きます。

〒192 八王子市元横山町1-14-16
-0063 TEL0426-46-3310
FAX0426-45-8700

入会申込

氏名・連絡先(自宅或いは勤め先の住所・TEL・FAX) 現職&キャリアを事務局までFAXまたは郵便でお送りください。

なお、年会費は郵便振込が便利です。
00180-2-580729

米欧回覧の会

〈催し案内〉

分科会のお申し込み・お問い合わせは
(2) 頁に記載の各担当幹事へ

★第13回例会

日時：4月25日(日) 午後1:00~5:00

場所：国際文化会館ホール

テーマ：文明論としての「米欧回覧実記」(仮題)

講師：芳賀徹氏(東京大学名誉教授)

★分科会

●「米欧回覧実記」を読む会

日時：3月4日：19回・4編・61巻~65巻

4月8日：20回・4編・66巻~70巻

5月6日：21回・4編・71巻~76巻

場所：クラウン・インターチェンジ・サロン

●現未来部会

日時：2月17日(水) 午後6:30~9:00

場所：国際文化会館セミナールーム

テーマ：「日本をどうする？」衆議院議員 松本善明氏

●歴史部会

日時：4月16日(金) 午後6:30~9:00

場所：国際文化会館セミナールーム

テーマ：「大東亜戦争」

《スライド映像について》

現在映像には次のようなものがあります。

- オリジナル版 (各巻30分、全10巻)
- ダイジェスト版 (各巻30分、全3巻)
- 英語版 (米国篇60分、英国・欧州篇60分)

そして、これまでに様々な組合せで上映されています。

①10回シリーズ：一回に映像30分解説30分その他

②3回シリーズ

・オリジナル版3巻上映90分と解説30分その他

・ダイジェスト版1巻上映と解説その他

③一回方式

・ダイジェスト版30分と解説その他

・ダイジェスト版90分と解説30分その他

・オリジナル版30分と解説その他

④英語版についても同様です。

但し、まだビデオにはなっておりません。

*編集後記

今回の「映像の会」についてはその企画担当でありプレスセンターのメンバーでもある尾崎美千生氏が「日本記者クラブ会報」第347号にその模様を次のように伝えています。

「観客は、欧米文明を深い教養と鋭い眼差しで追い求めた第一開国期の若きリーダー達の熱意に引き込まれた。そして、美しい自然や黒煙上がる近代工業の夜明け風景など、泉氏の、流れるようなナレーションの中で展開される『文明の出会い』に時空を超えた新鮮な響きを感じたようだった」

同じ時期に書かれたジュールヴェルヌの「八十日間世界一周」では主人公フォッグ氏を助けて大活躍する忠実な召使いパスパルトゥーが登場しますが、その意味は水沢周氏のコメントによると「合鍵」だそう、現代日本の諸問題を解く鍵も歴史の中にこそあるのではないかと思えます。そして、あらためてわが「米欧回覧の会」の今日的意義を思うことしきりです。